

★尾瀬の花①

春の湿原を埋めるミズバショウ

深い雪に閉ざされ、長い冬をすごしてきた尾瀬も、5月に入ると、一面真っ白な雪原のあちこちで雪が割れて大きな穴があき、徐々に雪解けが広がっていく。5月中旬から下旬にかけ、ダケカンバのふくらんだ芽が、日々に赤味を増し、川の流れが踊るように音を立て始めると、雪解けの早いところからミズバショウの花が咲きはじめる。

ミズバショウは、サトイモ科で、湿原や林下の湿地を好み、特に日本海側の亜高山帯に多い。真っ白の花びらに見える部分は苞で、

花はこの苞に包まれた肉質で棒状の香りのよい黄色をした小さな花をたくさん付けて咲く。葉は花が咲いた後に広がり、苞が枯れて落ちると大きくなる。

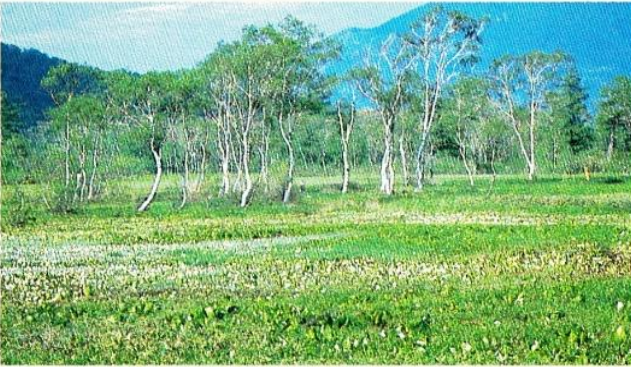
6月に入ると一面に緑が蘇り、ミズバショウも葉を広げて、一段と大きく、清楚で気品が増してくる。

この季節の尾瀬はまだ朝夕の冷え込みが厳しく、霜が下りると一朝にして白い苞が茶色くなり、無残に枯れてしまうことがある。低層湿原の養分豊富なところを好むため、尾瀬が原の高層湿原では、川沿いや山際に多く見られる。特に中田代の下ノ大堀川沿いに木道が回遊しているところは、6月上旬、至仏山を背景にした群落がみごとだ。

を背景にした群落がみごとだ。



清楚なミズバショウと尾瀬植物研究見本園のミズバショウ群落



尾瀬で最も早くミズバショウが見られるのは、4月下旬、大清水バス停近くの湿原。続いて、鳩待峠ノ山ノ鼻間の、川上川沿いの小さな湿原では、5月中旬に見られる。また、ミズバショウが多く見られるのは、山ノ鼻にある尾瀬植物研究見本園や、竜宮十字路から富士見峠寄りに少し行ったところ、六兵衛堀、下田代、赤田代、それに、尾瀬沼では大江川沿いや、尾瀬沼東岸といったところ。いずれも6月上旬～中旬に見られる。